

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 5 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3891000063
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
(ユニット名)	なのはな
記入者(管理者)	
氏名	佐々木 崇
自己評価作成日	令和 3 年 4 月 29 日

<p>【事業所理念】</p> <p>住み慣れた地域 人間としての尊厳を大切にし ゆったりとした環境の中で なじみのスタッフと生活を共に し 生活の再編を目指すお家で す。</p> <p>いつも にこにこ ほかほか家 族</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①運営推進会議において家族さんの参加が少なく、決まった人しか参加していないのでできるだけ多くの家族さんに参加してもらう為、日程や内容を調整を行いました。又、事前の葉書案内だけでなく、日頃の面会時等で、来訪されたときにも参加を呼びかけるよう取り組みました。結果始めて参加された方も有り、少しは成果が有ったように思います。この1年はコロナ禍により文書開催になった為、施設での開催ができていません。</p> <p>②地域のケア拠点としての機能を果たす為に、地域の方達の相談支援を行うようにこれまで積み上げた認知症ケア実践力を活かし、地域へ情報発信を行ったりいつでも相談を受け付けていることを周知する。結果は1件のみですが、地域住民に関する問い合わせが有りました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から山沿いの道を上がった静かな場所にある事業所は、大きな窓から自然豊かな山々や海に沈む夕日の絶景を眺めることができる。職員は利用者一人ひとりができることや得意なことを把握し、積極的に清掃や食器洗い、工作などの役割を日課に取り入れ、毎日活き活きと生活を送る利用者の様子が見られるよう支援している。現在はコロナ禍のため面会や外出制限などが設けられているが、ステイホームで利用者を楽しみをもってもらえるよう職員が考え、天気の良い日には庭に出て調理の下ごしらえをするなどの工夫もしている。事業所内ではテレビを目的なくずっとつけっぱなしにしておくことは控えており、職員は利用者とのかかわりを大切にしながら、日々の会話など向き合えるような環境づくりにも努めている。また、代表者や管理者は職員一人ひとりが安心して働くことができる環境づくりに取り組んでいることもあり、勤務歴の長い職員も多い。</p>
---	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目 内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人・家族に希望や意向を聞き把握に努めている。</p> <p>表情を観察し言葉聞き逃さないように努めている。</p> <p>電話や面会時に状況報告を行い、相談させてもらっている。</p> <p>センター方式を利用し情報を整理している。職員間の情報の共有には、申し送りノートを利用している。</p> <p>月1回のカンファレンスで利用者の状況を話し合い、ケアの見直しを行っている。</p>	○	◎	◎	<p>入居時に、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望を聞いて、記録している。また、日々の暮らしの中でも、利用者一人ひとりの思いや希望を聞いて把握し、職員間で共有できるように努めている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入所前に面談を行い、本人・家族などから話をきいている。</p> <p>生活の様子を観察し、残された力を見つけ把握するように努めている。</p> <p>普段の様子を観察し把握するよう努めている。</p> <p>職員同士で情報を共有し、要因の把握に努めている。</p> <p>一人ひとりのペースで出来るだけ生活が送れるようにしている。</p>	◎	◎	◎	<p>入居前に、職員は利用者や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、大切にしてきたことなどを聞き取り、センター方式シートを活用して取りまとめ、利用者一人ひとりの人物像が把握できるよう努めている。入居前に利用していた介護サービス事業所から、情報を得ることもある。職員は利用者向き合いながら、日々のかかわりの中で丁寧な情報収集に努め、新たに知り得た情報は申し送りノートに記載している。また、把握した情報は利用者毎の基本情報にも追記したり、定期的に情報を更新できる機会を設けたりするなど、新入職員を含めて利用者一人ひとりの情報が把握しやすく、職員間の情報の振り返りや再認識にもつながることも考えられるため、検討することを望みたい。</p>
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人・ご家族の意向を確認しカンファレンスなどで検討している</p> <p>生活を送る中で気付いたことをカンファレンスなどで検討している</p> <p>新しく見つけた課題については、その都度、職員間で解決できるよう話し合っている</p>	○	○	○	<p>職員が事前に把握した利用者の情報と、利用者や家族の要望を踏まえて職員間で話し合い、「利用者にとって必要なサービスは何か」を利用者の目線で検討している。</p>

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の意向を反映し、介護計画を作成している。				利用者にとってより良い生活が送れるように、課題や支援方法を利用者や家族、職員、関係者を交えて話し合い、それぞれの意見や要望を反映して、介護計画を作成している。利用者の入居後には、1～2か月暫定の介護計画で過ごしてもらい、その後、担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人・ご家族様に伺い、作成している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	残存機能を活かせるような内容になっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制は盛り込まれていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者ごとの介護計画を把握し共有している。				◎ 職員は、利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握している。毎日、その日に実施したサービス内容を確認して記録し、実施状況は職員間で共有している。また、利用者の発した言葉や行動の様子、気づきなどは、個別の介護記録のほか、申し送りノートにも記録できている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日 サービス内容が実施できたかモニタリング表にチェックをし記録と共に確認できるようにしている				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	その日の様子や普段と違った事など個別に記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録や申し送りノートに記入している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月毎のモニタリングを基に6か月間隔で短期目標1年間隔で長期目標の見直しを行っている。				◎ 3か月に1回、サービスの実施状況などを確認しながらモニタリングを実施し、6か月に1回短期目標の見直しをしている。毎月、毎日のサービスの実施状況の記録を確認しながら職員間で話し合い、利用者一人ひとりの現状確認もできている。また、状態の変化があった場合には、随時現状に即した計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月サービス内容のモニタリングを行い、現状の確認をしている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化に応じて、見直しを行い計画を作成している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	全員が揃うのは難しいため、意見を個々に聞くようにしている				△ 年に数回、法人の別事業所と合同でミーティングを実施しているほか、定期的に事業所内でミーティングを実施し、課題解決やカンファレンスなどの話し合いをしている。現在はコロナ禍のためミーティングの実施できていないが、収束状況を見ながら再開を予定している。現在は、全ての職員が参加した会議の開催はできていないため、事前に職員から個別に意見を聞いている。また、参加できない職員には、毎日の口頭での申し送りや申し送りノートを活用して、話し合った内容を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由に発言できるような雰囲気づくりをしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	調整は行っているが、全員が揃う事が難しいのが現状である。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	決定事項は申し送りノートや口頭で伝達し、周知できるようにしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りのノートに記入し共有するようにしている。				○ 毎日申し送りを実施し、職員に情報を伝達している。また、職員の出勤時には申し送りノートを確認し、職員間で情報が共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや業務日誌を利用し情報の伝達を行っている	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日課に沿ってその日を過ごすことが多い。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者が自己決定できるような声かけをしながら、好きなものを選ぶ機会を作っている。調理の下ごしらえの手伝いなど、利用者の毎日の定番となっているようなことも、天気の良い日には庭で日光浴をしながら下ごしらえをするなど、職員は工夫をしながら利用者が活き活きと楽しく過ごせるような支援も取り入れている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選べる方は自己決定する機会を作り、難しい方は本人本位にたち選ぶようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者が納得できるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	日課に沿ってその日を過ごすことが多いが利用者のペースに合わせて支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	言葉かけをし雰囲気づくりをしようとしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声掛けを行い表情を見逃さないようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声の大きさや口調には気を付けているが、強い口調になってしまうことがある。	/	○	○	定期的に事業所内研修を実施しており、職員は利用者の人権や尊厳について学んでいる。職員の中には、耳が聞こえづらい利用者の誘導時などの声かけで、つい大きな声を出してしまうことがあるため、利用者の羞恥心に配慮した声かけや誘導ができるよう職員間で検討することを望みたい。また、利用者の居室の入室時には、職員からノックや声かけをすることができているが、不在時の入室の際にも、事前にリビングなどにいる利用者に声をかけて確認するなど、職員間で話し合い、意識しながら支援できることを期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	耳の遠い方に対し、大きな声や口調になってしまうことがある。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時には同性介助を行ったりし、配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時にはノックをし出入りには十分配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報には十分気を付けて漏洩がないよう努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員が出来ない事を利用者にしていただいたり一方的にならないようにしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握している。トラブルが発生した場合には、職員が間に入って原因を確認して対応をしている。世話好きな利用者もおり、利用者同士で整容の乱れを直したり、体調の悪い利用者の代わりに食器洗いを手伝ったりするなど、相互に助け合うこともできている。また、職員は利用者同士の関わり合いや関係づくりを見守りながら支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が出来ることを行い、助け合っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	共用スペースでは席の配置に注意し、トラブルになりそうときは職員が間に入っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入ったり席替えをし対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	家族などから話を聞き、把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族などから話を聞き、把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	面会外出制限の為、電話や手紙のやり取りだけになっている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナ禍により面会制限をしているため、来ていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍により受診以外の外出支援は出来ていない。天気の良い日に日光浴をしているのみである。	○	△	○	現在のコロナ禍において、利用者が外出できる機会は減少しているが、精米に行く時に利用者と一緒にドライブしたり、天気の良い日には庭に出て日光浴や花の世話をしたり、庭掃除の手伝いをするなど、少しでも多く屋外に出て外気に触れ、気分転換ができるよう工夫している。また、重度の利用者にも、体調を見ながら日光浴など外気に触れられる機会を作っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方等の協力を得るよう支援できていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気の良い日に日光浴をしているのみである。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるよう支援している。	×	コロナ禍により支援できていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの状態を把握し、取り除くケアを行っている。	/	/	/	利用者のできることはもちろん、できそうなことにも着目して自分でしてもらい、職員は見守りながら支援している。事業所では、毎日の歩行訓練や車いすでの自走を取り入れたり、工作で手先を使ったり、自分の食事をテーブルまで運んでもらうなど、日頃から積極的に身体を動かしてもらい、利用者の筋力の低下防止など身体機能の維持や向上にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能が低下しないよう取り組んでいる。車椅子の人で自走が出来る方は、そのようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者毎にできることを行っている。又、職員がしてしまわないよう気を付けている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの生活歴や有する力を等を把握し、役割を持って過ごしていただいている。	/	/	/	掃除や食器拭き、野菜のカット、調理の下ごしらえなど、「利用者一人ひとりが役割を持ちながら、生き生きとした毎日の生活を送ってほしい」という職員の思いが、利用者の様子からも感じられる。また、マスクを縫ってもらするなど、利用者の得意なことでも力を発揮できる場づくりの支援もしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの利用者が役割を持って過ごせるよう取り組んでいる。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での支援が出来ていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	把握している。				整容の乱れがあれば、利用者のプライドを尊重しながら職員はさりげない声をかけ、清潔が保てるよう努めている。また、職員は重度の利用者の整髪や服装にも配慮し、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	一人ひとりの個性がうしなわれないよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	利用者に声掛けし、自己決定していただいている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や行事の時は季節にあわせてその人らしい服装にしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者を傷つけないようカバーしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	行きつけの店に行けるようにしていたがこの1年は出来ていない				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を保てるよう支援している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の意味や大切さを理解している。				職員が食材の買い出しに行き、調理専属の職員が毎食時に冷蔵庫の中にある食材を確認して、利用者と相談しながら栄養バランスの取れた献立を決めて調理している。利用者が包丁を使って野菜をカットするなどの下ごしらえをしたり、準備や後片づけをしたりする様子は、日常的な光景となっている。職員は利用者の好みやアレルギーを把握しながら、事業所周辺で収穫したつくしなどの旬の食材を取り入れて調理する工夫もしている。食器類は、利用者の使いやすいものを使用している。利用者と職員は一緒に食卓を囲み、食事介助やサポートをしながら、利用者と同じメニューや各自で用意した食事を摂ることができている。重度の利用者も体調に考慮して、リビングと一緒に職員が声かけをしながら食事を摂っている。また、栄養士などの専門家からのアドバイスは受けていないが、利用者の反応や嚥下状態を確認しながら、栄養バランスや食事形態などを職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の力に合わせ行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者さんが出来ることに合わせ行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	嫌いな物やアレルギーについて把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節なものや旬な食べ物を取り入れ、苦手なものやアレルギー等に気を付けて食事を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人ひとりの状態にあわせて調理方法や盛り付けにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	利用者にとって使いやすいものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に卓を囲み、利用者さんの食事を見守りサポートを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	声掛けを行い、美味しく味わえるように支援している。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	それぞれの状態や習慣に合わせて、確保している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少ないときは栄養補助食品を提供し、水分もこまめに提供したり飲みやすいように工夫したして低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、偏りがないよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	日常的に衛生管理を行っており、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。				

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	必要性、重要性を理解し努めている。	/	/	/	毎食後、職員が見守りや介助をしながら、利用者は口腔ケアを実施している。現在、口腔内の確認を嫌う利用者はいないため、定期的に職員は全ての利用者の口腔内の状況を確認できている。また、職員は口腔内の清潔にも努めており、異常が見られた場合には、協力歯科医の受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	どういう状態か把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学ぶ機会がなく、知識の範囲で丁寧に行っている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夕食後には洗浄液に浸けている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後口腔ケアを行っている。利用者の力に合わせ支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	状態が不具合の時は、歯科医を受診している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解し支援を行っている。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで気持ち良く排泄できることを基本として支援している。状態に合わせて紙パンツやパッドを使用している利用者にも、職員は一人ひとりに合わせて声かけやトイレ誘導をしていることもあり、パッドなどの排泄用品の使用枚数が減少した利用者もいる。また、希望で夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘になると不安定になる等理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	利用者毎に把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりの状態を見極め、その時々状態に合わせ支援を行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	運動を取り入れたり、飲食物に工夫をしたりして、取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を確認し、声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	職員が一方的に選択していることが多い。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人ひとりの状態に合わせて使い分けしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動を取り入れたり、飲食物に工夫をしたりして、取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	都合で決めてしまっていることが多い。	◎	/	○	職員の勤務態勢で、人手が多くある時に合わせて、週2回利用者が入浴できるよう調整している。入浴の時間帯や長さ、湯の温度など、利用者の希望にできる限り対応し、ゆったりとした入浴が楽しめるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりのペースでくつろげるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の力を活かし支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否する人に対しては、出来るだけ無理強いをせず時間や日にちをずらし入浴を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	前日やその日の体調を確認し、行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握している。				日中の過ごし方や生活リズムを大切に、利用者が夜間安眠できるよう取り組んでいる。入居前から睡眠導入剤などを継続して服用している利用者や、不眠など体調不良が続く場合には、主治医に相談して処方などをしてもらうこともあるが、職員は利用者の副作用などの経過観察をしながら、減薬につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は離床を促し、生活リズムを整えるよう行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	過ごし方など十分に検討し、医師や看護師に相談しながら行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室で休息や昼寝が取れるようにしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	書ける方は手紙を書いてもらい、話せる方は電話で話せるよう支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手紙は書くよう促したりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	話が出来る人には出来るよう配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙や葉書は必ず本人に渡し、返信が出来る人してもらっている。難しい人は職員が間に入っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	限られた方ではあるが、協力をいただいている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はしているが、使える機会が持っていない				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	外出制限をしているので、買い物に行けていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	近所の店へは理解や協力を得る働きかけが出来ていたが、最近は買い物に行けていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	使えるようには支援できていないが、所持できるようには支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に、話し合い同意を得ている。少数だが施設で管理している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	既存のサービスに捉われないよう取り組んでいる。		○	○	利用者や家族の希望に応じて、職員は柔軟に対応している。コロナ禍の前は、要望に応じて、家族との外泊したり親族の結婚式に参加したりするなど、サービスの多機能化に取り組むことができていた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入り出来るよう玄関に花を置いたりしている。	○	○	○	事業所は高台にあるため、国道沿いや事業所周辺に案内板を設置し、来訪者に分かりやすい工夫をしている。玄関周辺には利用者が世話をしている鉢植えや植物が置かれ、家庭的な雰囲気となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の貼り絵や工作物などを張り、殺風景にならないようにしている。	○	○	○	事業所内には海が見下ろせる大きい窓があり、利用者や来訪者は夕日など絶景を眺めることができる。共有空間にはリビングと畳スペースがあり、利用者は気軽に両ユニットを歩き来することができる。また、利用者と一緒に作った工作を飾っているほか、生活用品も置かれてあり、生活感のある空間となっている。また、洗面台には利用者の口腔ケアセットが置かれ、外からの汚れやほこりからカバーする工夫がされていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快に感じるものは置かず、掃除も利用者と一緒に、行き届いている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の貼り絵や工作物などを作成し、季節を感じれるようにしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いに過ごせるよう席の配置をしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	戸を開めたりして共用空間から見えないよう工夫している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるようにしている。	○			居室には、馴染みの家具や使い慣れたものなどを持ち込むことができる。事業所では、利用者が落ち着いて過ごすことができるような居室づくりの支援をしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	危険なものは手の届かないようにし、安全に配慮している。			◎	事業所では、毎食時に利用者ができるだけ自分のお膳は自分でテーブルに持っていけるように、職員は利用者一人ひとりの名前が書かれた棚に食事を用意し、食後もその棚に利用者が返却できるよう工夫をしている。また、居室のダンスには分別しやすいよう衣類別にシールを貼り、職員と一緒に片付けをしている利用者もいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	危険なものや誤飲しそうなものは手の届かないところで管理している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	仕舞っていることが多い危険なもの以外はいつでも手に取れるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中は開錠し来客者・利用者が自由に出入りできるようにしている。職員は離棟事故が起こらないよう気を付けている	◎	◎	◎	日中に玄関の施錠はしておらず、利用者や来訪者は自由に出入りできるようになっている。センサーチャイムもあるが、日中はセンサーをオフにしている。管理者はセンサーチャイムに極力頼らないよう考えており、職員は意識した支援ができるよう心がけている。また、落ち着かない、外に出たい利用者がある場合には、職員は安心できるような声かけや外に出て付き添うなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	施錠を望む家族さんは現在居らず、望む場合は説明を行い理解をしていただけるよう努める				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	自由に出入りが出来るようにしている。利用者に気付かれないよう見守りしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前に面談を行い、関係者から話を聞き把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状態の変化や異常が見られたとき、記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師や嘱託医に相談出来る関係を築いている。又、必要に応じて救急病院へ搬送するようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入所前に話を聞き把握している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族や本人の希望するかかりつけ医を受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院時の結果報告等の情報を伺い、話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時に情報提供書を作成し、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室と連絡を図り、情報交換に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院時には地域連携室と連携を図っているが日頃からの関係づくりは行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気付いたことは看護師に報告し、必要に応じて嘱託医やかかりつけ医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間オンコール体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	その都度看護師に報告し、必要に応じて嘱託医やかかりつけ医に相談し適切な医療を受けられるよう支援している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	変更時には、看護師より申し送りが有り、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時には職員が側で見守り、飲み忘れや誤薬がないよう取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の確認は常に行い、変化があるときは看護師や医師に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態が変化したときには、家族や医師、看護職等に状態報告をしている。				

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時に意向を聞いている。終末期に入る時にも嘱託医を交え意向を確認している。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する基本指針」を含む、医療連携体制に講ずる措置の概要があり、入居時に利用者や家族に説明して同意を得ている。状況変化に応じて、利用者や家族の意向も確認しており、事業所での終末期支援を希望する際には、家族と協力医、関係者と話し合い、情報や方針を共有して支援をしている。入院や他の介護施設への転院もあるが、事業所での看取りケアの希望も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	話し合いを行い、共有している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	把握し見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族に嘱託医・看護師が説明をし理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	嘱託医・看護師と連携を図りながら、支援している。居室内の環境にも配慮している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族さんの心情等を察し支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修や外部研修に行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	研修などで行っているが、コロナウイルスが施設内で発生した場合は完璧に出来るかは不安がある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	この1年はコロナウイルスの情報は特に気にしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染予防を行い、支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	限られた家族さんしか関係を築けていない。	/	/	/	コロナ禍の前は、事業所の餅つきや花見、運営推進会議などの案内を家族に送付し、参加協力をしてもらうことができていたが、現在は家族が参加できる行事開催は自粛している。現在、事業所では面会制限も設けられているため、以前より頻繁に家族へ電話連絡をしたり、担当職員からの利用者の写真に手紙を添えて送付したりするなど、利用者の近況が伝えられるよう工夫をしている。SNSのLINEアプリを活用して、連絡を取り合う家族もいる。また、年2回送付している「ほかほか通信」には、行事や生き活きと過ごす利用者の様子の写真も掲載している。また、家族との面会が気軽にできない時期のため、事業所通信を家族へ送付回数を増やしたり、オンライン面会を取り入れたりする工夫をするなど、さらに家族の安心につながるような取組みの検討を望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	個別に過ごせるよう対応しているが、コロナ禍によりこの1年間実施出来ていない	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	今年度は実施できていない	/	○	/	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	面会制限をしているため、電話での報告・ホーム新聞の送付や行事写真の送付を行っている。	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんに気なることなどを伺い、一方的な情報提供にならないよう行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	これまでの本人と家族の関係を把握・理解した上で、支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	その都度報告し、理解や協力を得るよう努めている。	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会などの交流は無い	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	リスクや対応策を、家族に説明し話し合った上で支援している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時に声掛けしたり、連絡を行ったりして意見や希望を伺っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約の際に詳しく説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明を行い、退去時には納得がいくよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時文書にて説明し、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	10年が経過し、理解は少しだが図れたと感じているが、この1年間は機会が作れていない。	/	◎	/	事業所では、利用者と一緒に地域の秋祭りや文化祭などの地域行事に参加したり、近隣住民に事業所の餅つきに参加協力したりしてもらうなどの交流をしている。現在のコロナ禍において地域行事は中止となり、地域住民との交流は減少しているが、年2回地域の道づくり活動に職員が参加協力をするなど、地域とのかかわりが途切れないように継続した取り組みもしている。また、事業所は開設して10年が経過し、近隣住民からみかんの差し入れをもらったり、あいさつを交わしたりするなど、日常的な関わりもできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	今年度はコロナ禍により日頃からの働きかけがあまり行えていない。地域の道づくりに参加しているのみである。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	増加していない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	特定の人立ち寄っている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	特定の人立ち寄っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍により、行えていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の活用が出来ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナ禍により、行えていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ禍により、文書での開催になっている。それまでは、利用者や家族、地域の人等の参加も有った。	/	◎	○	運営推進会議は、利用者や家族、区長、市議会議員、民生委員、市担当者など、多くの参加を得て開催している。現在はコロナ禍のため文書による書面開催となっているが、事前に参加メンバーから意見や質問がないか確認し、後日事業所の活動報告書を併せて、意見や質問への返答を記載する工夫もしている。今後は、会議の中で外部評価の取組み内容や目標達成計画の取組み状況などの報告できる機会を設けて意見交換をするなど、参加メンバーから出された意見をサービスに反映することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	報告が出来ていない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	コロナ禍により文書での開催になっている為、一方的な報告になっている。	/	×	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ禍により、文書での開催になっている。回答のある方は限られている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を作り、日々取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に理念を掲げている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修情報を提供し職員が受けたい研修に参加できるよう取り組んでいる。				法人の代表者は定期的に事業所への来訪があり、職員と顔を合やす機会も多い。職員は代表者と話しや相談がしやすいと感じている。法人・事業所として、職員への資格手当の支給や外部研修への参加助成、希望休暇にも対応するなど、職員一人ひとりが安心して働くことができる環境づくりに取り組んでいることもあり、勤務歴の長い職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勤務中に指導をし、取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与水準は年に2回評価を行い、賞与に反映している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	交流する機会は少なく又コロナ禍により出来ない状況にある。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	人員不足によりストレスが軽減出来ていない。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	内部研修を行い、理解している				事業所内研修で、職員は虐待防止や不適切ケアについて学んでおり、不適切なケアが見られた場合の手順や対応方法を理解している。気になる言葉づかいが見られた場合には、管理者から職員を注意したり、職員同士で注意し合ったりしているほか、ケア内容を職員間で話し合える環境づくりに努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	場をつくり話し合うように努めている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士が見過ごされないよう気を付けて注意を行っている。内部研修を行い、対応方法や手順は理解している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	人員不足やコロナによる自粛の為、職員のストレスは増加傾向にある。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修などで学び理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その都度職員同士で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に説明し理解を図っている。これまで家族等からの要望はないがあった場合はその都度対応するように取り組んでいる。				

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修にて学んだが、十分に理解できていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	家族からの要望があれば相談に乗り支援を行えるよう努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	連携体制を築けるようにしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、見えるところに掲げている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	消防署員に来ていただき訓練を行ったが最近は出ていない	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事例についても報告し、対応策を検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	話し合いを行い、検討し事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	理解しているが、対応方法についてはあまり検討出来ない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。市に報告・相談については事例は無い。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に速やかに回答し関係作りを行えるよう努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	定期的ではないが、個別に訊くようにしている。	/	/	○	日々のかかわりの中で、職員は利用者の意見や要望を聞き、利用者の声を大切にした支援に努めている。家族からは電話や来訪時に意見や要望を聞いている。管理者は、職員と一緒に現場で働いていることもあり、日常的に職員と話し合う機会も多い。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	個別に聞く機会を作っている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に詳しく説明しているのみになっている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	現場に足を運ばれたときに、直接話をしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	個別に聞き検討している。	/	/	○	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	理解し、取り組んでいる。				外部評価の自己評価は職員間で話し合いをして作成している。外部評価の結果や目標達成計画の内容は、運営推進会議の中で参加者に報告できているが、取組み状況のモニターにまでは至っていない。今後は、目標達成計画の取組み状況や経過を報告しながら、会議の参加者と情報を共有して、意見交換をするなどの取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	あまり活かしていないように感じる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	事業所全体での取り組みが出来ていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて報告している。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、周知している。				豪雨や台風の発生時には、実際に事業所として利用者と一緒に近隣にある行政の地域事務所まで避難した経験もある。事業所では、地域の土砂災害合同訓練に参加協力をするなど災害対策にも取り組んでいるが、管理者は、「地域との連携が十分に取れていない」と感じているため、近隣住民や消防署、近隣にある他の事業所と話し合いをするなど、協力支援体制が確保できることを期待したい。また、事業所はオール電化のため、停電時にも活用できる発電機やカセットコンロなどの防災用品を常備するなど、職員間で検討することを望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	担当者が定期的に点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域との連携が十分でない。消防署とは連携を図れている。	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	土砂災害合同訓練や消防署での訓練に参加し、多少は取り組んでいる。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症サポーター養成研修と高齢者虐待研修を1度ずつ実施したが、それ以外の事は出来ない				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	在宅のケアマネより地域の高齢者について聞かれた事が有ったのみで事業所からの働きかけが出来ていない。		△	△	事業所として、地域の高齢者からの相談はあまりないが、いつでも相談を受ける体制はできている。地域にある駐在所から、行方不明者の捜索協力の依頼があり、快く協力をしている。運営推進会議に市担当者が参加していることもあり、連携は取れているものの、現在はコロナ禍のため、地域活動の協力はできていない。また、事業所の近隣に住む高齢者が多く、気軽に相談できるよう地域のケア拠点となるような取組みが期待される事業所でもあることから、市行政と協働しながら、「認知症サポーター養成研修」を開催するなど、地域に認知症ケアなどの情報発信ができることを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力できていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍により地域活動が行えていない。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 5 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3891000063
事業所名 (ユニット名)	グループホームぽかぽか(ふたみ) ひまわり
記入者(管理者) 氏名	佐々木 崇
自己評価作成日	令和 3 年 4 月 29 日

<p>【事業所理念】</p> <p>住み慣れた地域 人間としての尊厳を大切にし ゆったりとした環境の中で なじみのスタッフと生活を共に し 生活の再編を目指すお家で す。</p> <p>いつも にこにこ ほかほか家 族</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①運営推進会議において家族さんの参加が少なく、決まった人しか参加していないのでできるだけ多くの家族さんに参加してもらう為、日程や内容を調整を行いました。又、事前の葉書案内だけでなく、日頃の面会時等で、来訪されたときにも参加を呼びかけるよう取り組みました。結果始めて参加された方も有り、少しは成果があったように思います。この1年はコロナ禍により文書開催になった為、施設での開催ができていません。</p> <p>②地域のケア拠点としての機能を果たす為に、地域の方達の相談支援を行うようにこれまで積み上げた認知症ケア実践力を活かし、地域へ情報発信を行ったりいつでも相談を受け付けていることを周知する。結果は1件のみですが、地域住民に関する問い合わせがありました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から山沿いの道を上がった静かな場所にある事業所は、大きな窓から自然豊かな山々や海に沈む夕日の絶景を眺めることができる。職員は利用者一人ひとりができることや得意なことを把握し、積極的に清掃や食器洗い、工作などの役割を日課に取り入れ、毎日活き活きと生活を送る利用者の様子が見られるよう支援している。現在はコロナ禍のため面会や外出制限などが設けられているが、ステイホームで利用者を楽しんでももらえるよう職員が考え、天気の良い日には庭に出て調理の下ごしらえをするなどの工夫もしている。事業所内ではテレビを目的なくずっとつけっぱなしにしておくことは控えており、職員は利用者とのかかわりを大切にしながら、日々の会話など向き合えるような環境づくりにも努めている。また、代表者や管理者は職員一人ひとりが安心して働くことができる環境づくりに取り組んでいることもあり、勤務歴の長い職員も多い。</p>
---	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目 内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人・家族に希望や意向を聞き把握に努めている。</p> <p>表情を観察し言葉聞き逃さないように努めている。</p> <p>電話や面会時に状況報告を行い、相談させてもらっている。</p> <p>センター方式を利用し情報を整理している。職員間の情報の共有には、申し送りノートを利用している。</p> <p>月1回のカンファレンスで利用者の状況を話し合い、ケアの見直しを行っている。</p>	○	◎	◎	<p>入居時に、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望を聞いて、記録している。また、日々の暮らしの中でも、利用者一人ひとりの思いや希望を聞いて把握し、職員間で共有できるように努めている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入所前に面談を行い、本人・家族などから話をきいている。</p> <p>生活の様子を観察し、残された力を見つけて把握するように努めている。</p> <p>普段の様子を観察し把握するよう努めている。</p> <p>職員同士で情報を共有し、要因の把握に努めている。</p> <p>一人ひとりのペースで出来るだけ生活が送れるようにしている。</p>	◎	◎	◎	<p>入居前に、職員は利用者や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、大切にしてきたことなどを聞き取り、センター方式シートを活用して取りまとめ、利用者一人ひとりの人物像が把握できるよう努めている。入居前に利用していた介護サービス事業所から、情報を得ることもある。職員は利用者向き合いながら、日々のかかわりの中で丁寧な情報収集に努め、新たに知り得た情報は申し送りノートに記載している。また、把握した情報は利用者毎の基本情報にも追記したり、定期的に情報を更新できる機会を設けたりするなど、新入職員を含めて利用者一人ひとりの情報が把握しやすく、職員間の情報の振り返りや再認識にもつながることも考えられるため、検討することを望みたい。</p>
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人・ご家族の意向を確認しカンファレンスなどで検討している</p> <p>生活を送る中で気付いたことをカンファレンスなどで検討している</p> <p>新しく見つけた課題については、その都度、職員間で解決できるよう話し合っている</p>	○	○	○	<p>職員が事前に把握した利用者の情報と、利用者や家族の要望を踏まえて職員間で話し合い、「利用者にとって必要なサービスは何か」を利用者の目線で検討している。</p>

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の意向を反映し、介護計画を作成している。				利用者にとってより良い生活が送れるように、課題や支援方法を利用者や家族、職員、関係者を交えて話し合い、それぞれの意見や要望を反映して、介護計画を作成している。利用者の入居後には、1～2か月暫定の介護計画で過ごしてもらい、その後、担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人・ご家族様に伺い、作成している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	残存機能を活かせるような内容になっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制は盛り込まれていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者ごとの介護計画を把握し共有している。				◎ 職員は、利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握している。毎日、その日に実施したサービス内容を確認して記録し、実施状況は職員間で共有している。また、利用者の発した言葉や行動の様子、気づきなどは、個別の介護記録のほか、申し送りノートにも記録できている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日 サービス内容が実施できたかモニタリング表にチェックをし記録と共に確認できるようにしている				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	その日の様子や普段と違った事など個別に記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録や申し送りノートに記入している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月毎のモニタリングを基に6か月間隔で短期目標1年間隔で長期目標の見直しを行っている。				◎ 3か月に1回、サービスの実施状況などを確認しながらモニタリングを実施し、6か月に1回短期目標の見直しをしている。毎月、毎日のサービスの実施状況の記録を確認しながら職員間で話し合い、利用者一人ひとりの現状確認もできている。また、状態の変化があった場合には、随時現状に即した計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月サービス内容のモニタリングを行い、現状の確認をしている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化に応じて、見直しを行い計画を作成している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	全員が揃うのは難しいため、意見を個々に聞くようにしている				△ 年に数回、法人の別事業所と合同でミーティングを実施しているほか、定期的に事業所内でミーティングを実施し、課題解決やカンファレンスなどの話し合いをしている。現在はコロナ禍のためミーティングの実施できていないが、収束状況を見ながら再開を予定している。現在は、全ての職員が参加した会議の開催はできていないため、事前に職員から個別に意見を聞いている。また、参加できない職員には、毎日の口頭での申し送りや申し送りノートを活用して、話し合った内容を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由に発言できるような雰囲気づくりをしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	調整は行っているが、全員が揃う事が難しいのが現状である。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	決定事項は申し送りノートや口頭で伝達し、周知できるようにしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りのノートに記入し共有するようにしている。				○ 毎日申し送りを実施し、職員に情報を伝達している。また、職員の出勤時には申し送りノートを確認し、職員間で情報が共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや業務日誌を利用し情報の伝達を行っている	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日課に沿ってその日を過ごすことが多い。				日々の生活の中で、職員は利用者が自己決定できるような声かけをしながら、好きなものを選ぶ機会を作っている。調理の下ごしらえの手伝いなど、利用者の毎日の定番となっているようなことも、天気の良い日には庭で日光浴をしながら下ごしらえをするなど、職員は工夫をしながら利用者が活き活きと楽しく過ごせるような支援も取り入れている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選べる方は自己決定する機会を作り、難しい方は本人本位にたち選ぶようにしている。					◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者が納得できるよう支援している。						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	日課に沿ってその日を過ごすことが多いが利用者のペースに合わせて支援している。						
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	言葉かけをし雰囲気づくりをしようとしている。						◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声掛けを行い表情を見逃さないようにしている。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声の大きさや口調には気を付けているが、強い口調になってしまうことがある。		○	○	○		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	耳の遠い方に対し、大きな声や口調になってしまうことがある。					△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時には同性介助を行ったりし、配慮している。						
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時にはノックをし出入りには十分配慮している。					○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報には十分気を付けて漏洩がないよう努めている。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員が出来ない事を利用者にしていただいたり一方的にならないようにしている。						
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が出来ることを行い、助け合っている。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	共用スペースでは席の配置に注意し、トラブルになりそうときは職員が間に入っている。					○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入ったり席替えをし対応している。						

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	家族などから話を聞き、把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族などから話を聞き、把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	面会外出制限の為、電話や手紙のやり取りだけになっている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナ禍により面会制限をしているため、来ていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍により受診以外の外出支援は出来ていない。天気の良い日に日光浴をしているのみである。	○	△	○	現在のコロナ禍において、利用者が外出できる機会は減少しているが、精米に行く時に利用者と一緒にドライブしたり、天気の良い日には庭に出て日光浴や花の世話をしたり、庭掃除の手伝いをするなど、少しでも多く屋外に出て外気に触れ、気分転換ができるよう工夫している。また、重度の利用者にも、体調を見ながら日光浴など外気に触れられる機会を作っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方等の協力を得るよう支援できていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気の良い日に日光浴をしているのみである。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるよう支援している。	×	コロナ禍により支援できていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの状態を把握し、取り除くケアを行っている。	/	/	/	利用者のできることはもちろん、できそうなことにも着目して自分でしてもらい、職員は見守りながら支援している。事業所では、毎日の歩行訓練や車いすでの自走を取り入れたり、工作で手先を使ったり、自分の食事をテーブルまで運んでもらうなど、日頃から積極的に身体を動かしてもらい、利用者の筋力の低下防止など身体機能の維持や向上にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能が低下しないよう取り組んでいる。車椅子の人で自走が出来る方は、そのようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者毎にできることを行っている。又、職員がしてしまわないよう気を付けている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの生活歴や有する力を等を把握し、役割を持って過ごしていただいている。	/	/	/	掃除や食器拭き、野菜のカット、調理の下ごしらえなど、「利用者一人ひとりが役割を持ちながら、生き生きとした毎日の生活を送ってほしい」という職員の思いが、利用者の様子からも感じられる。また、マスクを縫ってもらするなど、利用者の得意なことなどで力を発揮できる場づくりの支援もしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの利用者が役割を持って過ごせるよう取り組んでいる。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での支援が出来ていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	把握している。				整容の乱れがあれば、利用者のプライドを尊重しながら職員はさりげない声をかけ、清潔が保てるよう努めている。また、職員は重度の利用者の整髪や服装にも配慮し、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	一人ひとりの個性がうしなわれないよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	利用者に声掛けし、自己決定していただいている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や行事の時は季節にあわせてその人らしい服装にしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者を傷つけないようカバーしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	行きつけの店に行けるようにしていたがこの1年は出来ていない				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を保てるよう支援している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の意味や大切さを理解している。				職員が食材の買い出しに行き、調理専属の職員が毎食時に冷蔵庫の中にある食材を確認して、利用者と相談しながら栄養バランスの取れた献立を決めて調理している。利用者が包丁を使って野菜をカットするなどの下ごしらえをしたり、準備や後片づけをしたりする様子は、日常的な光景となっている。職員は利用者の好みやアレルギーを把握しながら、事業所周辺で収穫したつくしなどの旬の食材を取り入れて調理する工夫もしている。食器類は、利用者の使いやすいものを使用している。利用者と職員は一緒に食卓を囲み、食事介助やサポートをしながら、利用者と同じメニューや各自で用意した食事を摂ることができている。重度の利用者も体調に考慮して、リビングで一緒に職員が声かけをしながら食事を摂っている。また、栄養士などの専門家からのアドバイスは受けていないが、利用者の反応や嚥下状態を確認しながら、栄養バランスや食事形態などを職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の力に合わせ行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者さんが出来ることに合わせ行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	嫌いな物やアレルギーについて把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節なものや旬な食べ物を取り入れ、苦手なものやアレルギー等に気を付けて食事を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人ひとりの状態にあわせて調理方法や盛り付けにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	利用者にとって使いやすいものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に卓を囲み、利用者さんの食事を見守りサポートを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	声掛けを行い、美味しく味わえるように支援している。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	それぞれの状態や習慣に合わせて、確保している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少ないときは栄養補助食品を提供し、水分もこまめに提供したり飲みやすいように工夫したして低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、偏りがないよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	日常的に衛生管理を行っており、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。				

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	必要性、重要性を理解し努めている。				毎食後、職員が見守りや介助をしながら、利用者は口腔ケアを実施している。現在、口腔内の確認を嫌う利用者はいないため、定期的に職員は全ての利用者の口腔内の状況を確認できている。また、職員は口腔内の清潔にも努めており、異常が見られた場合には、協力歯科医の受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	どういう状態か把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学ぶ機会がなく、知識の範囲で丁寧に行っている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夕食後には洗浄液に浸けている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後口腔ケアを行っている。利用者の力に合わせ支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	状態が不具合の時は、歯科医を受診している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解し支援を行っている。				事業所では、利用者がトイレで気持ち良く排泄できることを基本として支援している。状態に合わせて紙パンツやパッドを使用している利用者にも、職員は一人ひとりに合わせて声かけやトイレ誘導をしていることもあり、パッドなどの排泄用品の使用枚数が減少した利用者もいる。また、希望で夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘になると不安定になる等理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	利用者毎に把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりの状態を見極め、その時々状態に合わせ支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	運動を取り入れたり、飲食物に工夫をしたりして、取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を確認し、声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	職員が一方的に選択していることが多い。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人ひとりの状態に合わせて使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動を取り入れたり、飲食物に工夫をしたりして、取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	都合で決めてしまっていることが多い。	◎		○	職員の勤務態勢で、人手が多くなる時に合わせて、週2回利用者が入浴できるよう調整している。入浴の時間帯や長さ、湯の温度など、利用者の希望にできる限り対応し、ゆったりとした入浴が楽しめるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりのペースでくつろげるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の力を活かし支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否する人に対しては、出来るだけ無理強いをせず時間や日にちをずらし入浴を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	前日やその日の体調を確認し、行っている。				

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握している。				日中の過ごし方や生活リズムを大切に、利用者が夜間安眠できるよう取り組んでいる。入居前から睡眠導入剤などを継続して服用している利用者や、不眠など体調不良が続く場合には、主治医に相談して処方などをしてもらうこともあるが、職員は利用者の副作用などの経過観察をしながら、減薬につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は離床を促し、生活リズムを整えるよう行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	過ごし方など十分に検討し、医師や看護師に相談しながら行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室で休息や昼寝が取れるようにしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	書ける方は手紙を書いてもらい、話せる方は電話で話せるよう支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手紙は書くよう促したりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	話が出来る人には出来るよう配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙や葉書は必ず本人に渡し、返信が出来る人してもらっている。難しい人は職員が間に入っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	限られた方ではあるが、協力をいただいている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はしているが、使える機会が持ていない				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	外出制限をしているので、買い物に行けていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	近所の店へは理解や協力を得る働きかけが出来ていたが、最近は買い物に行けていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	使えるようには支援できていないが、所持できるようには支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に、話し合い同意を得ている。少数だが施設で管理している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	既存のサービスに捉われないよう取り組んでいる。		○	○	利用者や家族の希望に応じて、職員は柔軟に対応している。コロナ禍の前は、要望に応じて、家族との外泊したり親族の結婚式に参加したりするなど、サービスの多機能化に取り組むことができていた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入り出来るよう玄関に花を置いたりしている。	○	○	○	事業所は高台にあるため、国道沿いや事業所周辺に案内板を設置し、来訪者に分かりやすい工夫をしている。玄関周辺には利用者が世話をしている鉢植えや植物が置かれ、家庭的な雰囲気となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の貼り絵や工作物などを張り、殺風景にならないようにしている。	○	○	○	事業所内には海が見下ろせる大きい窓があり、利用者や来訪者は夕日など絶景を眺めることができる。共有空間にはリビングと畳スペースがあり、利用者は気軽に両ユニットを歩き来することができる。また、利用者と一緒に作った工作を飾っているほか、生活用品も置かれてあり、生活感のある空間となっている。また、洗面台には利用者の口腔ケアセットが置かれ、外からの汚れやほこりからカバーする工夫がされていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快に感じるものは置かず、掃除も利用者と一緒に、行き届いている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の貼り絵や工作物などを作成し、季節を感じれるようにしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いに過ごせるよう席の配置をしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	戸を開めたりして共用空間から見えないよう工夫している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるようにしている。	○			居室には、馴染みの家具や使い慣れたものなどを持ち込むことができる。事業所では、利用者が落ち着いて過ごすことができるような居室づくりの支援をしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	危険なものは手の届かないようにし、安全に配慮している。			◎	事業所では、毎食時に利用者ができるだけ自分のお膳は自分でテーブルに持っていけるように、職員は利用者一人ひとりの名前が書かれた棚に食事を用意し、食後もその棚に利用者が返却できるよう工夫をしている。また、居室のダンスには分別しやすいよう衣類別にシールを貼り、職員と一緒に片付けをしている利用者もいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	危険なものや誤飲しそうなものは手の届かないところで管理している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	仕舞っていることが多い危険なもの以外はいつでも手に取れるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中は開錠し来客者・利用者が自由に出入りできるようにしている。職員は離棟事故が起こらないよう気を付けている	◎	◎	◎	日中に玄関の施錠はしておらず、利用者や来訪者は自由に出入りできるようになっている。センサーチャイムもあるが、日中はセンサーをオフにしている。管理者はセンサーチャイムに極力頼らないよう考えており、職員は意識した支援ができるよう心がけている。また、落ち着かない、外に出たい利用者がある場合には、職員は安心できるような声かけや外に出て付き添うなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	施錠を望む家族さんは現在居らず、望む場合は説明を行い理解をしていただけるよう努める				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	自由に出入りが出来るようにしている。利用者には気付かれないよう見守りしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前に面談を行い、関係者から話を聞き把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状態の変化や異常が見られたとき、記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師や嘱託医に相談出来る関係を築いている。又、必要に応じて救急病院へ搬送するようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入所前に話を聞き把握している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族や本人の希望するかかりつけ医を受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院時の結果報告等の情報を伺い、話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時に情報提供書を作成し、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室と連絡を図り、情報交換に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院時には地域連携室と連携を図っているが日頃からの関係づくりは行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気付いたことは看護師に報告し、必要に応じて嘱託医やかかりつけ医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間オンコール体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	その都度看護師に報告し、必要に応じて嘱託医やかかりつけ医に相談し適切な医療を受けられるよう支援している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	変更時には、看護師より申し送りが有り、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時には職員が側で見守り、飲み忘れや誤薬がないよう取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を定期的に行っている。	○	状態の確認は常に行い、変化があるときは看護師や医師に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態が変化したときには、家族や医師、看護職等に状態報告をしている。				

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時に意向を聞いている。終末期に入る時にも嘱託医を交え意向を確認している。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する基本指針」を含む、医療連携体制に講ずる措置の概要があり、入居時に利用者や家族に説明して同意を得ている。状況変化に応じて、利用者や家族の意向も確認しており、事業所での終末期支援を希望する際には、家族と協力医、関係者と話し合い、情報や方針を共有して支援をしている。入院や他の介護施設への転院もあるが、事業所での看取りケアの希望も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	話し合いを行い、共有している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	把握し見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族に嘱託医・看護師が説明をし理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	嘱託医・看護師と連携を図りながら、支援している。居室内の環境にも配慮している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族さんの心情等を察し支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修や外部研修に行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	研修などで行っているが、コロナウイルスが施設内で発生した場合は完璧に出来るかは不安がある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	この1年はコロナウイルスの情報は特に気にしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染予防を行い、支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	限られた家族さんしか関係を築けていない。	/	/	/	コロナ禍の前は、事業所の餅つきや花見、運営推進会議などの案内を家族に送付し、参加協力をしてもらっていたが、現在は家族が参加できる行事開催は自粛している。現在、事業所では面会制限も設けられているため、以前より頻繁に家族へ電話連絡をしたり、担当職員からの利用者の写真に手紙を添えて送付したりするなど、利用者の近況が伝えられるよう工夫をしている。SNSのLINEアプリを活用して、連絡を取り合う家族もいる。また、年2回送付している「ほかほか通信」には、行事や生き活きと過ごす利用者の様子の写真も掲載している。また、家族との面会が気軽にできない時期のため、事業所通信を家族へ送付回数を増やしたり、オンライン面会を取り入れたりする工夫をするなど、さらに家族の安心につながるような取組みの検討を望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	個別に過ごせるよう対応しているが、コロナ禍によりこの1年間実施出来ていない	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	今年度は実施できていない	○	/	/	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	面会制限をしているため、電話での報告・ホーム新聞の送付や行事写真の送付を行っている。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんに気なることなどを伺い、一方的な情報提供にならないよう行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	これまでの本人と家族の関係を把握・理解した上で、支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	その都度報告し、理解や協力を得るよう努めている。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会などの交流は無い	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	リスクや対応策を、家族に説明し話し合った上で支援している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時に声掛けしたり、連絡を行ったりして意見や希望を伺っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約の際に詳しく説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明を行い、退去時には納得がいくよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時文書にて説明し、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	10年が経過し、理解は少しだが図れたと感じているが、この1年間は機会が作れていない。	/	◎	/	事業所では、利用者と一緒に地域の秋祭りや文化祭などの地域行事に参加したり、近隣住民に事業所の餅つきに参加協力したりしてもらうなどの交流をしている。現在のコロナ禍において地域行事は中止となり、地域住民との交流は減少しているが、年2回地域の道づくり活動に職員が参加協力をするなど、地域とのかかわりが途切れないように継続した取り組みもしている。また、事業所は開設して10年が経過し、近隣住民からみかんの差し入れをもらったり、あいさつを交わしたりするなど、日常的な関わりもできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	今年度はコロナ禍により日頃からの働きかけがあまり行えていない。地域の道づくりに参加しているのみである。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	増加していない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	特定の人立ち寄っている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	特定の人立ち寄っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍により、行えていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の活用が出来ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナ禍により、行えていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ禍により、文書での開催になっている。それまでは、利用者や家族、地域の人等の参加も有った。	/	◎	○	運営推進会議は、利用者や家族、区長、市議会議員、民生委員、市担当者など、多くの参加を得て開催している。現在はコロナ禍のため文書による書面開催となっているが、事前に参加メンバーから意見や質問がないか確認し、後日事業所の活動報告書を併せて、意見や質問への返答を記載する工夫もしている。今後は、会議の中で外部評価の取組み内容や目標達成計画の取組み状況などの報告できる機会を設けて意見交換をするなど、参加メンバーから出された意見をサービスに反映することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	報告が出来ていない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	コロナ禍により文書での開催になっている為、一方的な報告になっている。	/	×	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ禍により、文書での開催になっている。回答のある方は限られている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を作り、日々取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に理念を掲げている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修情報を提供し職員が受けたい研修に参加できるよう取り組んでいる。				法人の代表者は定期的に事業所への来訪があり、職員と顔を合やす機会も多い。職員は代表者と話しや相談がしやすいと感じている。法人・事業所として、職員への資格手当の支給や外部研修への参加助成、希望休暇にも対応するなど、職員一人ひとりが安心して働くことができる環境づくりに取り組んでいることもあり、勤務歴の長い職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勤務中に指導をし、取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与水準は年に2回評価を行い、賞与に反映している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	交流する機会は少なく又コロナ禍により出来ない状況にある。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	人員不足によりストレスが軽減出来ていない。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	内部研修を行い、理解している				事業所内研修で、職員は虐待防止や不適切ケアについて学んでおり、不適切なケアが見られた場合の手順や対応方法を理解している。気になる言葉づかいが見られた場合には、管理者から職員を注意したり、職員同士で注意し合ったりしているほか、ケア内容を職員間で話し合える環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	場をつくり話し合うように努めている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士が見過ごされないよう気を付けて注意を行っている。内部研修を行い、対応方法や手順は理解している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	人員不足やコロナによる自粛の為、職員のストレスは増加傾向にある。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修などで学び理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その都度職員同士で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に説明し理解を図っている。これまで家族等からの要望はないがあった場合はその都度対応するように取り組んでいる。				

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修にて学んだが、十分に理解できていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	家族からの要望があれば相談に乗り支援を行えるよう努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	連携体制を築けるようにしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、見えるところに掲げている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	消防署員に来ていただき訓練を行ったが最近は出ていない	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事例についても報告し、対応策を検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	話し合いを行い、検討し事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	理解しているが、対応方法についてはあまり検討出来ない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。市に報告・相談については事例は無い。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に速やかに回答し関係作りを行えるよう努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	定期的ではないが、個別に訊くようにしている。	/	/	○	日々のかかわりの中で、職員は利用者の意見や要望を聞き、利用者の声を大切にした支援に努めている。家族からは電話や来訪時に意見や要望を聞いている。管理者は、職員と一緒に現場で働いていることもあり、日常的に職員と話し合う機会も多い。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	個別に聞く機会を作っている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に詳しく説明しているのみになっている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	現場に足を運ばれたときに、直接話している。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	個別に聞き検討している。	/	/	○	

愛媛県グループホームほかほか(ふたみ)

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	理解し、取り組んでいる。				外部評価の自己評価は職員間で話し合いをして作成している。外部評価の結果や目標達成計画の内容は、運営推進会議の中で参加者に報告できているが、取組み状況のモニターにまでは至っていない。今後は、目標達成計画の取組み状況や経過を報告しながら、会議の参加者と情報を共有して、意見交換をするなどの取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	あまり活かせていないように感じる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	事業所全体での取り組みが出来ていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて報告している。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、周知している。				豪雨や台風の発生時には、実際に事業所として利用者と一緒に近隣にある行政の地域事務所まで避難した経験もある。事業所では、地域の土砂災害合同訓練に参加協力をするなど災害対策にも取り組んでいるが、管理者は、「地域との連携が十分に取れていない」と感じているため、近隣住民や消防署、近隣にある他の事業所と話し合いをするなど、協力支援体制が確保できることを期待したい。また、事業所はオール電化のため、停電時にも活用できる発電機やカセットコンロなどの防災用品を常備するなど、職員間で検討することを望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	担当者が定期的に点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域との連携が十分でない。消防署とは連携を図れている。	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	土砂災害合同訓練や消防署での訓練に参加し、多少は取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症サポーター養成研修と高齢者虐待研修を1度ずつ実施したが、それ以外の事は出来ない				事業所として、地域の高齢者からの相談はあまりないが、いつでも相談を受ける体制はできている。地域にある駐在所から、行方不明者の捜索協力の依頼があり、快く協力をしている。運営推進会議に市担当者が参加していることもあり、連携は取れているものの、現在はコロナ禍のため、地域活動の協力はできていない。また、事業所の近隣に住む高齢者が多く、気軽に相談できるよう地域のケア拠点となるような取組みが期待される事業所でもあることから、市行政と協働しながら、「認知症サポーター養成研修」を開催するなど、地域に認知症ケアなどの情報発信ができることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	在宅のケアマネより地域の高齢者について聞かれた事が有ったのみで事業所からの働きかけが出来ていない。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力できていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍により地域活動が行えていない。			○	